



「日本最大の駅家 ^{うまや} 賀古駅家」

夏の民族大移動ともいえるお盆休み。今年も例年の如く、高速道路は大渋滞でした。今回は、道にまつわる話題です。

兵庫県の駅家研究は、最先端をいっているといっても過言ではありません。昨年、県立考古博物館で特別展「古代官道 山陽道と駅家」が開催されました。奈良時代、道路の整備の一環とは公用で旅行する官吏（役人）を宿泊させたり、馬を提供するために駅家が整備されました。山陽道は、行政区画も同時に示しており、現在の兵庫県西部から山口県までの道です。その間に 51 の駅家があり、その内兵庫県内には 11 駅家があったとされ、位置の確定が発掘調査などで進んでいます。

大同 2（807）年の改制以降は、新任国司の赴任や税等の運搬に海路を利用することが多くなり、駅路利用は衰微します。

加古川市内では野口町古大内に「賀古駅家」があったとされます。現在の大歳神社境内に駅館院跡があったとされます。役人が儀式や休憩のために使用したとされ、瓦葺で白壁という当時としては滅多にみられない建築物だったと思われま



賀古駅家は、「延喜式」によると、一時、馬 40 頭を擁した日本最大の駅家になります。通常は 20 頭とされますが、前後の駅家の廃駅により 40 頭を擁する規模になったとされています。

現在、駅家研究が進んでいます。山陽道の路線跡が確認された事例は極めて少なく、兵庫県内ではたつの市の小犬丸遺跡のみです。

日本最大の当時の“サービスエリア”が加古川北高校のすぐ南に存在したことは、すごいことだと思いませんか？